

**ことり**

令和2年11月16日

№10

ことり保育園　大場

　11月22日は「小雪」、わずかながらに雪が降り始めるころとされています。このころから暖かな小春日和と寒い日を繰り返しながら、寒さが深まります。冷たい風に落ち葉が舞い、虫や動物たちが冬眠に入るのもこの頃。冬の訪れを感じさせます。そして12月7日が「大雪」、いよいよ雪が降り積もるころとなっていきます。近年、暖冬と言われ雪の量が減ってきていますが、今年はどんな冬になるのでしょうか。コロナ感染がなかなか治まらないまま冬を迎える今年、マスクの着用や手指消毒の徹底のおかげかインフルエンザの流行が遅れているようです。このまま流行らずにいてくれると助かりますが、今後も新しい生活様式を守りながら感染防止対策をしていきたいです。

　11月末には発表会、12月はクリスマス会と楽しい行事が控えています。お子さんの免疫力を高めて元気に登園できるよう、早寝早起き、しっかり朝食を心がけていきましょう。



12月の行事予定

15日（火）身体測定　　　　　　　　　　28日（月）希望保育

16日（水）避難訓練　　　　　　　　　　29日（火）～1/3日（月）年末年始休暇

17日（木）クリスマス会　　　　　　　　 4日（火）～5日（水）希望保育

24日（木）英語あそび

※年末年始の希望保育はお仕事の場合のみ保育します。ご家族のご協力をお願いいたします。



　発表会について（観覧のご注意）

　この頃、ホールでお遊戯やごっこ遊びをすることが多くなり発表会が近づいているなあとワクワクしています。子どもたちの楽しそうな姿が本番でも見ることができるといいです。先日、参加人数を把握するため皆さんに書類を提出していただきましたが、どうにか密にならずに見ていただけるのではないかと判断いたしました。それでも、多方面の方が集まることになりますのでご自身の正意をもってお過ごしいただきますようお願いいたします。（下記、注意事項参照）

尚、おやつの試食を予定しておりましたが、県内で会食による感染者がでていることや兄弟のお子さんを連れてくる方がいらっしゃることから、中止することにいたしましたのでご了承ください。

* 検温、健康状態、行動の記録をとっておいてください。（16日～28日）
* 入室時の手指消毒、マスクの着用をお願いします。
* 37.5℃以上の熱、咳、鼻水等の症状がある場合は観覧できません。
* 観覧席にはマットを敷きますが、座席に制限を設けますので、当日、職員の指示に

従ってご着席ください。



**乳幼児突然死症候群（SIDS）について**

11月は乳幼児突然死症候群の対策強化月間です。令和元年教育・保育施設等の事故報告の全国集計結果をみると、保育所における死亡事故が0～2歳児で6件発生しています。事故の発生時の状況をみると、睡眠中の事故が6件中4件と大半を占めている状況です。SIDSについてはガイドラインによって事故防止の取り組みがなされ、0件ではありますが、一日の大半を保育園で過ごす子どもたちを保育する私たちはこれからも十分に気をつけていかなければなりません。ことり保育園ではお子さんが眠っている間、眠りの様子を観察して記録（0歳児→5分間隔/　1歳児→10分間隔の睡眠の観察）をしています。夜間保育の時も同様に、就寝から起床するまで睡眠の観察と記録を行っています。うつぶせ寝が好きな子もいますが、深い眠りに入ってから仰向けにしたりして予防しています。

**乳幼児突然死症候群（SIDS）とは**　　　　　　　　　　　　　　（厚生労働省）

乳幼児突然死症候群（SIDS）とは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児に突然の死をもたらす疾患であり、乳児の死亡事故の上位を占めています。事故や窒息ではなく睡眠中に突然死亡する病気です。原因は、まだわかっていないようです。日本では、およそ6,000人～7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていると推定されています。生後2ヶ月から6ケ月に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。

SIDSから赤ちゃんを守るための3つのポイント

１　うつぶせ寝は避ける

うつぶせ寝が、あおむけ寝に比べてSIDSの発生率が高いという研究結果が出ています。

医学上の理由で必要な以外は、赤ちゃんの顔が見えるあおむけに寝かせるようにしましょう。また、赤ちゃんをなるべく一人にしないことや、寝かせ方に対する配慮をすることは、窒息や誤飲、けがなどの事故を未然に防ぐことになります。

２　たばこはやめる

両親が喫煙する場合、両親が喫煙しない場合よりSIDSの発症率が高くなるというデータがあります。妊婦自身が喫煙することはもちろん、妊婦や乳児の側での喫煙も避けるよう、身近な人の協力が必要です。

３　できるだけ母乳を与える

母乳で育てられている乳児は、人工乳の乳児と比べてSIDSの発症率が低いといわれています。

